

# 伊那市のプロモーション動画が配信されています

伊那市では移住・定住や関係人口の創出に向けた様々な取組により、SMOUT（スマウト）での人気の移住先3年連続第1位をはじめ、ふるさとワーキングホリデー（以下、ワーホリ）においても先進地として、全国から注目いただいています。

この度、そのようなご縁もあり、ワーホリを所管する総務省とSMOUTから撮影協力依頼を受け、伊那市で撮影されたプロモーション動画が完成し、配信となりました。



## ■ふるさとワーキングホリデー

### YouTube インフルエンサー体験動画

総務省は、若者世代に向けたワーホリ制度の利用促進を目指したプロモーション活動の一環として、ユーチューバーでインフルエンサーの「じんじん」による、ワーホリ体験動画を制作。動画では田植え体験や、地域の方との交流など、地域の日常生活の様子を紹介。



## ■SMOUT プロモーションショート動画

「地域で暮らすこと」、「地域で働くこと」、「地域を訪れ体験すること」の魅力伝えるため、それぞれのテーマで、実践者の声を軸とした動画を作成。

伊那市で自分らしい生き方を実現したロールモデルへの取材を通じて、より一層の伊那市への関心を寄せていただき、移住に向けた一歩を踏み出す勇気を後押し。



- ◇ 地域で暮らす  
伊那市へ移住し、米農家として働く谷口さんを紹介。
- ◇ 地域で働く  
伊那市へ移住後、カフェを開業した和泉さんを紹介。
- ◇ 地域を訪れ体験する  
ふるさとワーキングホリデーをきっかけに、伊那市への移住を決めた坂野さんを紹介。



添付資料 有

## 本件に対する問い合わせ先

## ◇ ふるさとワーキングホリデーとは

ふるさとワーキングホリデー（以下、ワーホリ）とは、都市部への人口流出による地域の人口減少や過疎化、高齢化による働き手不足、経済力低下などの地域が抱える課題を是正するため、総務省が2017年1月に始めた取組。

ワーホリ期間中（2週間から1か月程度）は、地域に滞在し、働いて収入を得ながら、地域住民との交流や学びの場などを通じて、地域の暮らしを体感し、地域とのかかわりを深めていただく。

仕事の内容は地域によってさまざまであり、農業や漁業、旅館・ホテルなどの接客など、その地域の特色を生かした仕事を体験することができる。

令和6年3月までにおよそ5,100人がワーホリに参加し、その中には、参加をきっかけにその地域に移住したり、地域おこし協力隊として活躍されていたりする方もいる。

## ◇ 伊那市のふるさとワーキングホリデーについて

伊那市では、移住促進・関係人口の創出と拡大を目指す施策の一環として、令和元年度からワーホリ制度を導入。

令和元年度は試行的に市単独事業として実施し、令和3年度から本格的に取り組んでいる。

ワーホリ事業専任の地域おこし協力隊を配置し、受入れ事業者や宿泊先等との連絡調整、ワーホリ参加者のアテンドを担っている。

あえて外部委託を行わずに「直営」で運営することにより、きめ細やかな対応を強みとしている。

また、ワーホリ参加者の滞在期間中の宿泊費、レンタカー代、ガソリン代は、市が全額補助（事業費の2分の1に特別交付税を充当）するため、参加者の経済的負担が少ない点も特長。

仕事の内容は主に農業であり、本市の特産品であるトルコギキョウやアルストロメリア農家や、海外への輸出を展開している米農家など、これまでに17の事業者を受入れをご協力いただいている。

宿泊場所には、そこで生まれる人と人とのつながりや交流を楽しんでいただこうと、市内のゲストハウスを用意している。

休日は、地域の人とのつながりや、風土、魅力ある景観などを楽しんでいただけるよう、地域の方や他の参加者、地域のイベントなどを紹介している。

これまでに、のべ395人の応募があり、実際に85人がワーホリに参加した。

本市のワーホリは、参加者と地域とのつながりづくりを重要視していることから、ワーホリをきっかけとして、移住される参加者が多い（これまでに13名が移住）。

### 本件に対する問い合わせ先



長野県伊那市 企画部 地域創造課 移住定住促進係  
(課長) 田中 (係長) 田中  
電話: 0265-78-4111 (内線) 2253  
FAX: 0265-74-1250 E-mail: jkz@inacity.jp